

# 位山

●瀬織津姫や多くの神々から御神託を下ろす巫女の Youtube チャンネル「瀬織津姫の巫女 龍女が紡ぐ神々からのメッセージ」をいつも興味深く見ている。御神託を下ろす巫女さんは何人もいらっしゃるが、この原田さんが瀬織津姫や神々と最も強く近いつながりを持っている方ようだ。

近頃その原田さんより、飛騨高山の位山において昨年の夏に 4 回にわたり浄化の神事登山をしてきたことが伝えられた。この位山は、かつて神々が住まう場所であり、人々の祈りの中心とされていた大切な山だったこと。それゆえに住んでいた竜族が皆殺しに遭い、この山が放つエネルギーも封じられていたと。今回、この山が浄化されたことにより、全国に神々のエネルギーが広がることになるそうである。詳しくはぜひ動画をご覧ください。

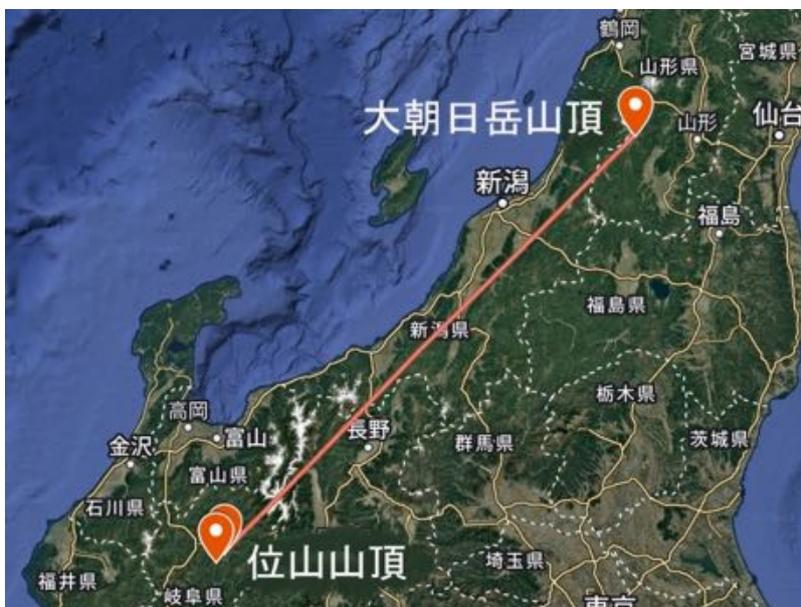
## 動画



位山は日本のピラミッド研究の第一人者酒井勝軍（かつとき）の講演を聞いた郷土史家の上原清二元陸軍砲兵大佐が見つけた提唱した。『竹内文献』では「位山に、日の神の皇太子の居る大宮を日玉国と云ふ」とあり、天孫降臨が行われた場所と指摘している。ミステリーファンに注目されてきた山である。

はたして、この日本のもっとも神聖な位山と大朝日岳や大沼浮島は繋がっているのだろうか。調べてみたい気持ちがむくむく湧いてきたので久しぶりに地図を開いてみた。

まずは位山山頂と大朝日岳にラインを引いてみた。すると…



位山と大朝日岳の間に「飛騨一宮 水無神社」の本殿の屋根をラインは見事に貫いた。水無神社は位山を祀る神社であり、動画では巫女の方原田さんも最初に訪れていた。大朝日岳とつながるためにこの位置に建てられたことがわかる。前後にラインを伸ばしてみたが、ほかの神社仏閣にはつながらなかった。水無神社が位山をご神体としているのに社は御嶽山や富士山を向いていることが論議されているが、本殿の建物はラインと並行に建てられている。位山に本殿を向ければ大朝日岳に背を向けてしまうことを配慮して建てられたのだろう。

■位山 山頂（三角点） →→→→→ 飛騨一宮 水無神社 →→→→→ 大朝日岳山頂（三角点）



### ■位山

飛騨高地の中央に位置する岐阜県高山市の標高 1,529m の山。飛騨北部と南部の境界であり宮川と飛騨川の分水界である位山分水嶺の山。飛騨一宮水無神社の神体である。位山には岐阜県の県木であるイチイの原生林がある。位山の名前の由来について、朝廷に位山のイチイを笏の材料として献上した際、この木が一位の官位を賜ったことから木はイチイ、山は位山と呼ばれるようになったという説があり、現在でも天皇即位に際して位山のイチイの笏が献上されている。古来より霊山とし崇められている。天孫降臨、天の岩戸、両面宿禰などの伝説のある山である。(Wikipedia より抜粋)

### ■飛騨一宮 水無神社

岐阜県北部、高山市の市街地南方に鎮座する。式内社。西南方の位山（くらいやま、標高 1,529m）を神体山として祀る神社で、飛騨国の鎮守・祖神として古くは斐陀国造によって崇敬された。祭神は以下の 15 柱で、水無大神（みなしのおおかみ）と総称される。

主祭神 御歳大神 - 「水無神」と呼ばれる

配神

大己貴命、三穗津姫命、応神天皇、高降姫命、神武天皇、須沼比命、天火明命、少彦名命、高照光姫命、天熊人命、天照皇大神、豊受姫大神、大歳神、大八椅命



創建の年代は不詳であるが、清和天皇の時代に従五位上の神階の記事がある。『延喜式』では小社に列格し、飛騨国の一宮とされた。鎌倉時代には「水無大菩薩」と称し、社僧が奉仕した[2]。近世には水無大

明神・水無八幡宮と称した。戦国時代の戦乱で祭祀が途絶え、附近の寺が管理したが、元禄5年(1692)から吉田神道系に属するようになった。(Wikipediaより抜粋)

創立鎮座の年代は神代にありと伝わりますが、古伝旧記が散逸して詳しい事は定かではありません。歴史上にあらわれるのは平安初期、貞観9年(867年)に従五位上の神位を授けられた記事にはじまります。元慶5年(881年)には従四位上に昇叙され神位も累進し、中世の鎌倉時代以降には神仏習合が進み、神仏一体の両部神道として社僧を置き、本地堂一字を建てて釈迦像を安置し、水無(みなし)大菩薩を称するようになりました。第二次世界大戦末期の空襲や終戦直後の混乱を避けるため、熱田神宮の御神体が一時期当社へ疎開されました。これを御動座と言います。(水無神社公式サイトより抜粋)

岐阜県高山市一之宮町 5323 番地

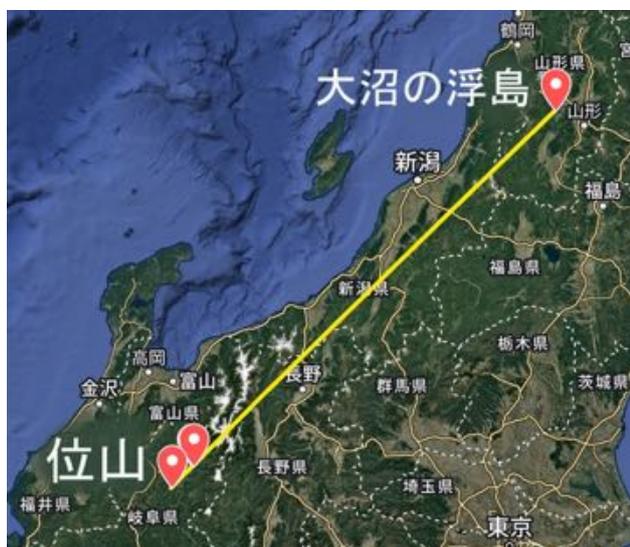
### ■大朝日岳(朝日連峰・朝日岳)

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』(1505年)によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権限・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天(初頭神は大山祇神)、女躰権現は大日如来(木花咲耶姫命)、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。「朝日嶽信仰」は執権北条時頼(1246~56)によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。



備考/朝日と名のつく場所は、太陽信仰の古代出雲族が朝日を遥拝した場所とされている。

●次に大沼浮島の弁天島(出島)と繋げてみた。どこもぶつからずがっかりしたが、位山には天岩戸という神聖な磐座があり巫女原田さんも入念に浄化していたことを思い出した。イワクラペディアというサイトによれば、緯度経度:36° 2'29.64"N 137° 11'51.32"Eとわかった。これをgoogleに入力すれば場所が表示されると書いてあるので入力してみると、マーカーが出てきた。ここ大沼浮島の出島を繋げてみた。すると…



■位山 天岩戸 →→→→ 日輪神社 →→→→ 大沼の浮島弁天島（出島）

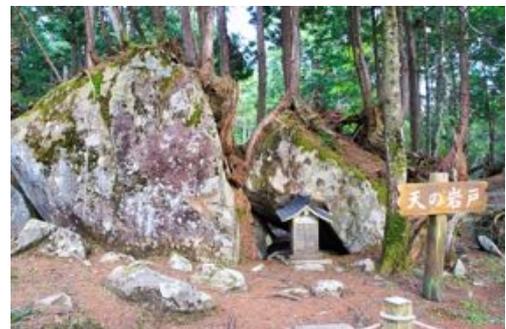


●なんと、日輪神社の本殿の屋根をかすっていた。日輪神社は巫女の前田さんも位山の神事の最後に訪れていた。日本のピラミッドの中心という考え方がありパワースポットな場所として多くの人々が訪れるようになった。しかし、太陽石のある山にまで踏み入り神聖な場のエネルギーを乱してしまっているらしい。邪気が入らないよう結界を張っていらした。

水無神社と日輪神社を介して、日本の最も神聖な位山と大朝日岳・大沼は見事につながっていた。

#### ■位山の天岩戸

位山（くらいやま）には、名前が付いた岩が数多く存在し、巨石群を形成しています。その中心と考えられる天の岩戸は、頂上近くに存在し、祠が設置されて祀られています。飛驒の口伝によると、長である淡上方様が崩御されると位山の頂上に岩を運んで皇祖岩（すめらのおやいわ）とし、その横に埋葬した。そしてその後も代々の祖先を葬り、ヒルメムチ（天照大神）もここに葬られた。と伝わっています。この口伝からは「墳墓」と考えられます。



位山が重要な聖山であることは、多くの古史古伝で伝わっています。神武天皇が位山に登山すると、身一つにして面二つ、手足四本の姿をした両面宿禰（りょうめんすくな）が天から降臨し、天皇の位を授けたので、この山を位山と呼ぶようになった・・・飛驒の伝説。

ヒルメムチ（天照大神）が葬られている位山で、サヌ（神武）にイチイの木で作られた位板が授けられた・・・飛驒の口伝。

アマテル神を取り上げる際に、胞衣を割くのに、位山の一位の笏（さく）が用いられ、この笏を持つ者は神の末裔となった・・・『ホツマツタエ』。

このような伝説が新興宗教を呼び込み、太陽神殿と光神殿が位山に建設されています。

（イワクラペディアより抜粋）

## ■日輪神社

創立年代は不詳であるが山そのものが御神体として崇敬が厚く、第百二代後花園天皇の永享年間（西暦 1429～1440）小八賀郷の領主斯波氏が再興し、社嶺を奉獻した。中古以来「日輪」と称し、寛永元年再建し、宝暦四年には現本殿を再営した。（境内立て看板より抜粋）

創祀未詳なれども、斐太後風土記及び飛州誌に依れば当村、小産村、瓜田村、川東、十余ヶ村の産土神はほとんど当日輪神社の分神なりとの伝説あり。永享の頃小八賀郷の領主斯波氏の尊崇甚だ篤く社殿結構壯麗を極め衆庶の参詣陸続たりしと云へり。当時の遺跡として現存する字地名数カ所あり。寛永年間再興とある。

主祭神 天照皇大御神（あまてらすすめおおみかみ）

摂末社祭神

倉稻魂大神 火武主比大神 奥津日子大神

奥津比女大神 菅原道真公

（岐阜県神社庁サイトより抜粋）



酒井勝軍は昭和9年に高山を訪れて講演をしているが、その時感化されたのが郷土史家の上原清二元陸軍砲兵大佐。上原は飛騨中のピラミッド山を探し、特に巨石群がある位山は、山自体が巨大なエネルギー体であるとした。上原によれば、飛騨に広がるピラミッドゾーンを統合する地点は旧丹生川村大谷の日輪神社であるという。

（隠居の「飛騨の山とある日」サイトより抜粋） 岐阜県高山市丹生川町大谷字添洞 562 番地

## ■大沼浮島

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。

沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳9年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久4年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。

国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼



自由に動く浮島(手前)と動かない出島(奥)

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。しかも波を立てずに動く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れてきたのを見つけたのだから、すでに大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。「大富沼」が大沼なら出雲系「富一族」の祀る沼

だったのだろう。大沼を拠点にしていた朝日嶽修験の大朝日岳にも大富権現（弁財天）が祀られていた。役の小角が稲荷神を祀ったとすれば伏見稲荷よりも古くなる。調べると730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるので、その時に元々の弁財天（瀬織津姫）や龍神を稲荷神にすり替えられたのかもしれない。とはいえ、近頃は宇迦之御魂神も瀬織津姫だったという考え方が浮上しているから隠して祀っていたことになるのだろうか。いずれにせよ、古いしくみはほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」（写真）が起点となっている。弁財天（瀬織津姫）を祭神とする大沼浮島社（仮称）はここにあったはず。

大沼浮島は、全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫（瀬織津姫）が祀られているのも本来はこの分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になると思われる。

●次はこの位山と大朝日岳の2点とつながる聖地をコツコツ探してみた。



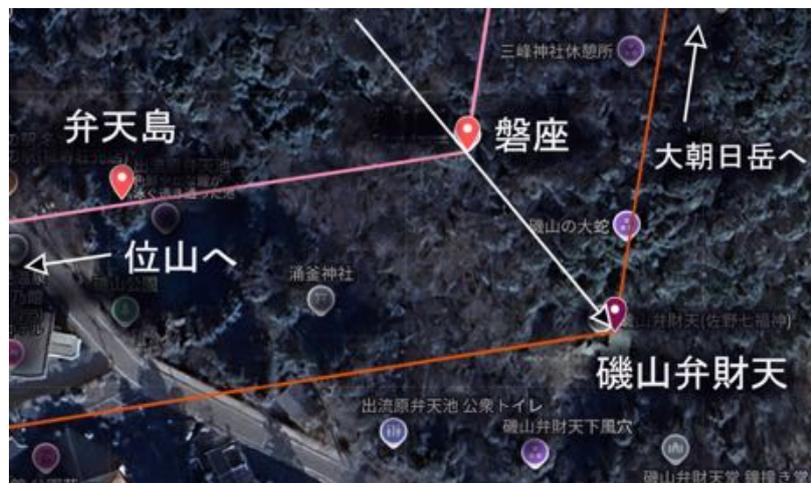
■位山 天岩戸 →→213.534km→→→ 磯山弁財天 →→→ 213.534km→→ 大朝日岳山頂



■位山 天岩戸 →→213.501km→→→ 磯山弁財天の磐座 →→→ 213.501km→→ 大朝日岳山頂



●栃木県の磯山弁財天が真ん中に位置することがわかった。建物と違って自然物は地図上に表れないので正確な距離数とはいえないが、どちらも誤差があっても数 m 程度だと思われる。



### ■磯山弁財天

磯山弁財天は、今を去る千年の昔、唐沢山城主藤原秀郷公の勸請により弘法大師が相州江ノ島弁財天にて護摩修行の際、その護摩の灰にて造られしものといわれ、その当時は一帯に七宝伽藍が林立して頗る隆盛を極めたと云います。

当磯山弁財天も以前は弁天池の中の小島に祀ってあったものを霊泉の不変の恩恵に浴した出流川沿岸の住民、特に水車講農民等の信仰が厚く感謝の総意により現在地に奉安したと云われ、日本広しといえど弁天様を山腹に安置するのは磯山弁財天のみとされます。

(古今東西御朱印と散サイトより抜粋)

栃木県佐野市出流原町 1117

※千と千尋の神隠しのモデルになったのではと推測されています。



■位山 山頂（三角点） →→→→弁天島（磯山弁財天宮跡地） →→→→磯山弁財天の磐座

●なんと磯山弁財天は、平将門を討ち取った藤原秀郷の勸請だった。以前の調査で平将門は菅原道真の子孫たちとつながって朝日岳信仰の力を得ていたことがわかった（別頁 平将門の乱を参照）。しかし、秀郷も直接大朝日岳のエネルギーを引き寄せて利用していたことになる（弁財天勸請が将門を討ち取る前か後かは不明）。

●社殿は弁天池の小島から現在地に移された歴史があった。秀郷が勸請したのだから、まだ弁天島に祀られていたはず。この弁天島は、位山→弁天島→磐座の祭祀線上にぴったり位置するので、元々は古代出雲族が位山と大朝日岳のエネルギーの集結地点に置いたであろう磐座の前に弁財天を祀って磐座のエネルギーを受け取っていたのだと思われる。

時代は下り、あえて位山と大朝日岳の真ん中でつながるために磐座の後ろに移したのだと思われる。

本殿は南に向けて建てられ、知らずに大朝日岳の弁財天（大富権現）に参拝するしくみになっている。

●秀郷 vs 将門のことはともかく、巫女の方原田さんにより位山が浄化され、大朝日岳や大沼にも神々のエネルギーは伝わり、いにしへの光が放たれることを心から祈っている。

## 追記

●位山のピークを 5m ずらすと戸隠神社の八水神の滝を通ることがわかった。

■位山 山頂 →→ 飛騨一宮 水無神社 →→ 戸隠神社八水滝 →→ 大朝日岳山頂（三角点）



戸隠神社の奥社とは 50m も離れていたのチェックしないうでいたのだが、戸隠が気になって改めて地形図を UP してみると八水滝が表示されてきた。八水神とは、天水分神や国水分神、弥都波能売神（みづはのめ）など水の神の一般的な呼び方らしい。水の神といえば瀬織津姫。出雲口伝では元々太陽の女神が瀬織津姫。瀬織津姫が岩戸隠れして鏡を見せられ天照皇大神（アマテラス）になったと考えると、戸隠山の八水滝は小さな滝だが重要ポイントといえる。この滝があったからこそこの場所に奥社が祀られたのではないだろうか。グーグルのマーカーは少しずれている場合があるので、位山の本当のピークはこの位置かもしれない。

ちなみに標高がわかる地理院の地図を確認すると、位山の山頂は一ヶ所だけが尖っているのではなく縦になだらかに見える。いずれにしても私がこの祭祀線探しでこだわっている ±5m 誤差の範囲内である。



それならばと、位山の同じ標高に位置する展望台を起点に置いてみた。すると見事に戸隠神社奥社を通った。水無神社は本殿から 70m 離れた境内社の白川神社を通っている。ときめいたが調べてみると昭和 32 年に、ダムに沈む白川村の白山神社を二つ合祀して遷座したらしい。残念。しかし、この祭祀線をおかっているこの場所に遷座したのかもしれない。いちおう記録しておく。

■位山山頂 展望台 →→ 水無神社白川神社 →→ 戸隠神社奥院 →→ 大朝日岳山頂（三角点）



●最後にファンタジーな考察が浮かんできた。

位山は元々神々が住まう竜族の山。戸隠山にも九頭竜神社がある。そして大朝日岳も大竜山。

位山は大朝日岳の自然エネルギーも引き寄せ大切な磁場を形成していた。水無神社や戸隠の八水神はそれをつなぐ役割だった。

■位山 山頂 →→ 水無神社 →→ 戸隠神社八水神 →→ 大朝日岳山頂 は、竜蛇信仰の出雲族にとって、大切な聖地のエネルギーをつなぐ祭祀線だったと考えられる。

出雲口伝によると太陽神は女神でどうやら瀬織津姫らしい。もしかしたら戸隠山の八水滝に戸隠神社の岩戸を置くことにより祭祀戦を遮断し、片翼である大朝日岳のエネルギーを止めたのではないか。瀬織津姫エネルギーを岩戸隠れ(封じて)させて弱めているのではないだろうか。天孫族の鏡を見せられ瀬織津姫は天照大神にすり替えられたのかもしれない。

妄想コラムカテゴリーに書いた「かごめ唄の真実「後ろの正面」は誰?」もぜひご覧ください。